



THE KYOTO PROPOSITION AT  
THE ANNUAL MEETING  
IN 2014 OF ASSOCIATION  
FOR CHILDREN'S ENVIRONMENT

# 表2

01

子どもたちが自由に遊べる  
外遊び環境を実現しよう

子どもたちが安全に自由に遊べる道も含めた外遊び環境は、物理的環境と遊びの仕掛けの両面から確保することが大切である。同時に、子どもたちが自由に遊べる外遊び環境や道があることは社会全体に寄与することであり、その実現は重要課題である。

02

遊びや体験を通して  
知恵や生き方を伝えていこう

昔ながらの遊びや自然体験や伝統的行事などが伝承できるような環境をつくりだそう。そして、遊びや自然体験を単に伝えるだけではなく、それらを通して知恵・生き方も伝えていこう。それは時に新しいものを創造することにもつながっていくであろう。

03

〈もの〉と〈こと〉を  
一緒に伝えていこう

昔ながらのもの(ハート)だけをただ残すように伝えていくのではなく、その思想・考え方あるいは行事や祭礼や日常的な生活など、そこで行われること(ソフト)も一緒に継承することによって、生きた継承が可能になっていくであろう。

04

地域性を見いだしながら  
伝えていこう

地域によって、気候・風土も異なり、それまで継承してきた歴史・文化も異なる。したがって、地域によって伝えていくべきことも変わってくる。地域の中から何を伝えるのかを見いだすことが、それぞれの地域にあったことも環境へとつながっていくであろう。

05

伝え方を工夫しよう

真似ることから習得の一步が始まる伝統芸能と、読み書きの現代的技術を用いた習得法の事例など、子どもたちにとっての体験の重要性を参考に、映像、音などの多様なツールを取り入れた継承法を学び、工夫していき、子どもたちみんなに伝えていこう。

06

地域の祭りや伝統的行事への  
参加と関心を高めよう

社会状況が変わり、またそのものや住民の構成も変わってきているが、例えば地域の祭りや伝統的行事などにみんなが関わっていけば地域力の維持につながり、それは地域で子どもたちを見守ることにつながっていくであろう。

07

条例の制定運動を  
おこそう

子どもの遊び環境に着目した「子どもが元気づけばいいに遊び育つまちづくり条例」の制定を、首長、議会に働きかけ、条例制定の直接請求も視野に入れ、子どもの遊び環境改善の国民運動に発展させよう。

## 子どもと歴史・伝統

子ども環境学会2014年大会(京都) 大会提言

〜未来につなげて〜

子ども環境学会2014年大会(京都)を終えて、7つの提言をまとめました。国際シンポジウム、特別シンポジウム、各分科会で語られ、議論されたことについて、大会ノートである歴史・伝統との関連性もふまえて、いかに未来につなげていこうかという視点でまとめています。日本らしき地域らしきも大切にしながら、地域にあって子どもにやさしい環境がつくられていくことを願っています。

大会実行委員長 高木真人

